

登壇者プロフィール（登壇順）

皆川満寿美【総合司会】

大学非常勤講師（早稲田大学、立教大学他）。社会学、エスノメソドロジー、ジェンダー研究を専門とする。日本社会学理論学会専門委員（2006～2009）。近著：「相互行為と性現象－エスノメソドロジーからのアプローチ」『相互行為の社会心理学』（2002）、「男女共同参画政策は今どこにいるのか」『女性学』vol.16（2009）、「成し遂げられるものとしての〈女〉－社会学の一つの見方」『立教大学ジェンダーフォーラム年報』第7号（2006）、「女性差別撤廃委員会最終見解・選択議定書 めぐって」『季刊セクシュアリティ』46号（2010）

大沢真理【午前の部司会、パネルディスカッション2】

東京大学社会科学研究所教授。日本学術会議会員。ベルリン自由大学、ボッフム大学、アジア工科大学院などで客員を務める。東京大学社会科学研究所全所的プロジェクト研究「ガバナンスを問い直す」リーダー。税制調査会専門家委員会委員長代理。近著：Gendering the Knowledge Economy, Comparative Perspectives, co-edited with Sylvia Walby, Heidi Gottfried, Karin Gottschall, Basingstoke and New York: Palgrave Macmillan（2007）、『現代日本の生活保障システム 座標とゆくえ』岩波書店（2007）, Social Security in Contemporary Japan, A Comparative Analysis, Routledge/University of Tokyo Series（2011）

猪口邦子【主催者挨拶】

エール大学政治学博士、日本学術会議人間の安全保障とジェンダー委員会委員長、参議院議員、自由民主党千葉県参議院選挙区第五支部長、元内閣府特命担当大臣（少子化・男女共同参画）（2005～2006）、元軍縮会議日本政府代表部特命全権大使（在ジュネーブ）（2002～2004）、元上智大学教授（国際政治学）（1990～2002, 2004～2006）、元男女共同参画会議議員（2001～2002, 2005）、日本学術会議会員（2005～）。受賞歴：1972年文部大臣賞、1989年吉野作造賞、2003年エイボン女性大賞。主な研究業績：『戦争と平和』、東京大学出版会、1989年、『戦略的平和思考』、NTT出版、2004年、“Women in Development and Economic Crisis: Gender Security, Gender Mainstreaming, and Democratization” (99/WLNM/018) APEC Women Leader's Network Meeting, Wellington, New Zealand, 20-23 June, 1999.

堂本暁子【主催者挨拶】

1932年生まれ、東京都出身。東京女子大学文学部卒業。TBS報道局記者、ディレクターとして1980年、『ベビーホテル・キャンペーン』で日本新聞協会賞ほか受賞。1989年、参議院議員に当選。2期12年。男女共同参画社会基本法、環境基本法、DV防止法、児童買春防止法、NPO法などの制定に関与。GLOBE(国際環境議員連盟)の日本総裁、世界総裁、IUCN(世界自然保護連合)アジア地域理事ならびに副会長を歴任。1997年、UNEP(国連環境計画)の『環境に貢献した25人の女性リーダー』に選ばれる。2001年から2期8年千葉県知事を務める。県民参加の県政を軸に、地方民主主義の確立を目指す。NPO立県や男女共同参画政策、障害者条例、生物多様性ちば戦略の制定などに力を注いだ。2004年に性差医療普及の功績によりコロンビア大学から国際アテネ賞を受賞。

大原美保【基調講演1】

2000年、東京大学工学部土木工学科卒業。2005年に東京大学より博士（工学）を授与。東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター助手・助教を経て、2008年4月から准教授に着任。

2008年6月からは東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究センター准教授も兼務している。専門は、都市防災計画、住民の災害意識、防災教育など。事前の防災計画や防災情報の効果的な活用により、来るべき災害被害の最小化を目指す研究を行っている。

池田恵子【基調講演2】

静岡大学教育学部教授。社会地理学、南アジア地域研究が専門。バングラデシュ農村を対象に、開発とジェンダー、農村住民の災害対応、地域防災への女性の参加などを研究。近著：How Women's Concerns are Shaped in Community-based Disaster Risk Management in Bangladesh, Contemporary South Asia, 17 (1) : 65-78. (British Association for South Asian Studies (2009))、
「ジェンダーの視点を取り込んだ災害脆弱性の分析：バングラデシュの事例から」『静岡大学教育学部研究報告人文・社会科学篇』60 : 1-16 (2010)。

奥山恵美子【現地報告1】

仙台市長。1975年に仙台市職員に採用、1993年から市民局生活文化部女性企画課長として男女共同参画を推進。2001年教育局生涯学習部参事（財団法人仙台ひと・まち交流財団メディアテーク館長）を経て、2003年に市民局次長、2005年に仙台市教育委員会教育長、2007年に仙台市副市長（～2009年3月）。2009年8月から現職。現在、男女共同参画会議監視専門調査会委員も務める。

小林清美【現地報告2】

1963年郡山女子大学短期大学部家政科食物栄養学専攻卒業、2003年4月郡山婦人団体協議会会長、平成2003年12月日本レクレーションインストラクター、2011年5月福島県婦人団体連合会副会長。

山本あい子【現地報告3】

兵庫県立大学教授。また同大学地域ケア開発研究所：「災害と健康危機管理に関するWHO看護協力センター」所長。日本学術会議連携会員。阪神・淡路大震災後、日本災害看護学会設立(1998)に関わり、その後、世界災害看護学会の設立にも関与し（2008）、現在同学会理事長。2005年より同大学看護学研究科博士後期課程において、災害看護専攻領域の教育を世界に先駆けて開始。

青木玲子【リレートーク司会】

NPO法人全国女性会館協議会常任理事、和光大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、国立女性教育会館客員研究員。2000年東京ウィメンズプラザ情報担当係主任専門員退職、2001年～2006年越谷市男女共同参画支援センター所長、2006年～2009年埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネーター。

伊藤エミ子【リレートーク 現場から：私は訴えたい1】

岩手県宮古市生まれ、同市在住。日本防災機構認定防災士。2001年度、岩手県男女共同参画サポーター養成講座修了。2001年～2006年度に同講座を修了した有志とともに、男女共同参画の学び合いと情報交換、地域への発信を目的とした「あじさいの会」を結成。あじさいの会では、2007年と翌2008年に、防災と女性をテーマにフォーラムを開催。約28年にわたり、水産物卸小売業の職場で接客を担当。

宗片恵美子【リレートーク 現場から：私は訴えたい2】

特定非営利活動法人イコールネット仙台 代表理事。男女平等をテーマに幅広く取り組むとともに、

男女平等を核としたネットワーク形成を目指し、セミナー、調査研究、ワークショップなどの活動を行っている。仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台 市民活動スペースの管理運営を担当。2008 年、仙台市内居住の女性等を対象に「災害時における女性のニーズ調査」を実施し、「女性の視点からみる防災・災害復興に関する提言」をまとめた。2010 年 4 月より、中央防災会議地方都市等における地震防災のあり方に関する専門調査会委員を務める。今回の震災発生に伴い（財）せんだい男女共同参画財団と協力し、「せんとくネット」を立ち上げ、被災女性のニーズを掘り起こし支援活動を行っている。また、避難所のお見舞い訪問を行い、女性たちの現状把握に努めている。

小宮ひろみ【リレートーク 現場から：私は訴えたい 3】

福島県立医科大学附属病院性差医療センター部長。福島県女性医師支援センター長 福島県立医科大学附属病院教授（医学部准教授）。専門は産婦人科、生殖内分泌。ペイラー医科大学留学後、福島県立医科大学に勤務、現在は性差医学からみた女性医療・健康支援に従事している。基礎研究で取り組んできた代表的な論文は、In situ localization of messenger ribonucleic acid for an oviduct specific glycoprotein during various conditions in the golden hamster Biol Reprod 5 1996. Partially redundant functions of SRC-1 and TIF2 in postnatal survival and male reproduction Proc Natl Acad Sci USA 101 2004.

秦好子【リレートーク 東日本大震災と女性の活動 1】

防災アドバイザー集団「防災の種まき本舗」店主、前内閣府防災とボランティア検討会委員、住宅防火・防災研究会」幹事、社会貢献学会理事、元横浜市職員。福祉のまちづくり担当課長。消防局消防監、横浜市「福祉のまちづくり条例」、「横浜市地域防災計画福祉局編」を所管。協働及び男女共同参画の視点を反映。消防業務における男女共同参画の視点から緩やかなネットワーク JFFW（ジャパン・ファイヤ・ファイテング ウイミンズ クラブ）を創設。2005 年に総務省消防庁総務課長通知により地位獲得。ニューヨークテロ災害時、FDNY 支援を行う。阪神淡路大震災支援の教訓から、行政・企業・市民が協働で被災地支援を展開する「横浜災害ボランティアバスの会」創設。中越地震、三條市水害、岩手・宮城内陸地震では、いのちに寄り添う被災地支援。現在、様々な団体と協働し、「被災地の子どもを支援する神奈川市民の会」として東日本大震災気仙沼支援活動を展開中。工学院大学と共に、新宿駅西口一帯の減災プロジェクトに取り組む。著書（共著）『やっぱりやらなきゃ 耐震リフォーム』経済調査会(2006)、他。

板本洋子【リレートーク 東日本大震災と女性の活動 2】

茨城県日立市生まれ。1969 年、日本青年団協議会へ勤務。事務局員として青年団活動に従事。全国各地の若者問題に関わる。1980 年、日本青年館事業の一つとして結婚相談所設立と同時に専任となる。1984 年、結婚相談所所長となる。2008 年、結婚相談所長を退任、「専門相談員」として結婚相談事業に関わる。県・市町村・女性団体・農業団体・労働組合・青年団体などで「地域・若者・家族・女性・結婚」をテーマに講演、「出会いやコミュニケーション」のワークショップ、関連事業の企画やコーディネーターをつとめる。著書：『花婿学校—いい男になるための 10 章』（共著）三省堂（1990）、『追って追われて結婚探し』新日本出版社（2005）、他。

原ひろ子【パネルディスカッション司会】

城西国際大学客員教授、お茶の水女子大学名誉教授。女性と健康ネットワーク副代表、JAWW（日本女性監視機構）顧問、APWW（Asia Pacific Women's Watch）アドバイザー、アジア女性交流・研究フォーラム顧問。もと内閣府男女共同参画会議議員。著書『ヘアー・インディアンとその世界』

平凡社（1989）、『子どもの文化人類学』晶文社（1979 以来続刊中）、『男女共同参画と男性・男児の役割』（近江美保・島津美和子との共編著）明石書店（2007）など。

山地久美子【パネルディスカッション 2】

関西学院大学災害復興制度研究所研究員、NPO 法人神戸まちづくり研究所副理事長。神戸学院大学客員教授、関西学院大学准教授等を経て、現職。専門は家族社会学、福祉国家論。ハワイ大学社会科学卒業、神戸大学大学院総合人間科学研究科博士後期課程単位取得満期退学。2010 年より科学研究費補助金を受け研究代表者として国内外の研究者とともに日本・韓国・台湾・米国において「ジェンダーと災害復興—制度設計と生活再建をめぐる課題に関する国際比較研究」の調査を進める。主要論文：「ジェンダーの視点から防災・災害復興を考える—男女共同参画社会の地域防災計画」『災害復興研究』1 号（2009）、「Institutional Design of Individual Units and Family Units on Disaster Victim Directory in Japan」『災害復興研究』3 号（2011）6 月発行予定、等

後藤俊夫【パネルディスカッション 3】

現在、日本学術会議会員、第三部副部長、人間の安全保障とジェンダー委員会副委員長。名古屋大学工学研究科博士課程修了、名古屋大学工学研究科教授、工学研究科長、副総長等を経て、現在中部大学副学長。応用物理学会会長時から男女共同参画活動にも関与。専門は光量子工学。論文等：Insight into sticking of radicals on surfaces for smart plasma nano-processing, Applied Surface Science, **253** (2007) 6657; Ultrafast all optical switching using pulse trapping in birefringent fibers, OPTICS EXPRESS, **13** (2005) 8128.

田端八重子【パネルディスカッション 4】

1944 年生まれ。1993 年フェミニストカウンセリング研究連絡会（現 NPO 法人日本フェミニストカウンセリング学会）の設立にかかわり、運営委員及び理事として参画。現在に至る。1955 年北京会議。2000 年国連女性会議（ニューヨーク）参加。もりおか女性センター建設にかかわる。DV 法及び第 1 次・第 2 次改正にかかわる。NPO 法人参画プランニング・いわて設立にかかわり、もりおか女性センター指定管理を受託、管理・運営にあたり、現在に至る。役職：NPO 法人参画プランニング・いわて副理事長兼事務局長、もりおか女性センター センター長、内閣府「配偶者からの暴力被害者アドバイザー派遣事業」アドバイザー、盛岡市の各種委員を拝名。著書：「おんな 板橋に生きて 一生活史」（共著）シャリオ（1990）、「女たちが女性センターの運営に乗り出した！」（共著）NPO 法人ユック舎（2006）。

辻村みよ子【閉会の辞】

東北大学大学院法学研究科教授。日本学術会議会員。専攻は、憲法学・比較憲法学・ジェンダー法学。法学博士。ジェンダー法学会理事長、内閣府男女共同参画会議議員。グローバルCOE「グローバル時代の男女共同参画と多文化共生」拠点リーダー。近著：『憲法とジェンダー』有斐閣（2009）（第 2 回昭和女子大学女性文化章受賞）、『ジェンダーと法 [第二版]』不磨書房（2010）、『壁を超える』ジェンダー社会科学の可能性・第3巻（辻村編）岩波書店（2011）、『憲法から世界を診る—一人権・平和・ジェンダー [講演録]』法律文化社（2011）、『比較憲法（新版）』岩波書店（2011）、*Gender Equality in Asia: policies and political participation*, Eds., Tohoku University Press（2011）。